

滋賀・童謡、唱歌

①声に出して読もう！

われは湖の子 さすらひの
旅にしあれば しみじみと
昇る狭霧さぎりや さざなみの
滋賀の都よ いざさらば

小口 太郎 作詞

狭霧…「さ」は接頭語。
霧…秋の季語。



①声に出して読もう！

松は緑に 砂白き
雄松が里の 乙女子は
赤い椿の 森蔭に
はかない恋に泣くとかや

小口 太郎 作詞

雄松が里…大津市近江舞子。



組

番

(例) ②口語詩にチャレンジ！

私は琵琶湖の子、これから旅に出る。
この先何が起こるのか、
霧のようにはつきりしない。
波打つ不安もあるが、
故郷よ、いざ出発だ。
さようなら。

③口語詩を音読しよう！

④友だちの口語詩の
よかったところをほめよう！

組

番

(例) ②口語詩にチャレンジ！

新緑の松が白い砂に美しい。
雄松が里の若い乙女は、
赤い椿の森に隠れて、
はかない恋に泣くようだ。

③口語詩を音読しよう！

④友だちの口語詩の
よかったところをほめよう！

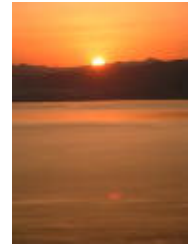
滋賀・童謡、唱歌

①声に出して読もう！

波のまにまに 漂へば
赤い泊灯とまりび なつかしみ
行方定めぬ 浪枕
今日は今津か 長浜か

小口 太郎 作詞

波枕：波の上に寝ること。船中に
旅泊すること。



組

番

例 ②口語詩にチャレンジ！

人生は次から次の波に漂う不安定なものだ。
湖岸の赤い泊灯に懐かしさを覚える。
行方の定まらない不安定なこの人生。
運命の波に身を任せ、
今日は今津にいるのか長浜だろうか。

③友だちからのコメント

ここがよかったよ！

①声に出して読もう！

瑠璃るりの花園 珊瑚さんごの宮
古い伝への 竹生島
佛の御手に いだかれて
ねむれ乙女子 やすらげく

小口 太郎 作詞

瑠璃：七宝の一つ。青色の宝石で
ふつうはラピスラズリをさ
す。



組

番

例 ②口語詩にチャレンジ！

青い花園にある珊瑚の神社、
古い言い伝えのある竹生島、
仏様の手に抱かれて眠る乙女子よ、
どうか安らかにお眠りなさい。

③友だちからのコメント

ここがよかったよ！

ことわざ・故事成語



情けは人のためならず

情け…：他を哀れむ心。慈愛。
人情。思いやり。

①声に出して読もう！

(例)

②口語詩にチャレンジ！

情けをかけることは他人のためではない。いずれは巡り巡って自分に返ってくるものなのだ。だから、誰にでも親切にしておいたほうがよいよ。
(誤用) 他人に情けをかけると、その人がまた別の人に頼る癖をつけてしまうんだ。だから、必要以上に情けをかけてはいけないよ。

組

番

③友だちからのコメント
ここがよかったよ！

湖南・ことわざ



急がば回れ

①声に出して読もう！

語源 もののふの

矢橋の舟は速けれど

急がば回れ瀬田の唐橋

宗長(室町期の連歌師)

もののふ…：武士。ここでは「矢」の枕詞。

矢橋…：矢橋(草津市)の渡し。

(例)

②口語詩にチャレンジ！

もし君が急ぐならば、
遠回りしたほうがよいよ。
そのほうが着実だ。安全だ。

組

番

③友だちからのコメント
ここがよかったよ！

ことわざ・故事成語



一寸……「寸」は長さの単位。
短い時間のたとえ。
光陰……月日。歲月。移りゆく時。

（中国・宋時代の思想家）
朱子

一寸の光陰
軽んずべからず

①声に出して読もう！

（例）

②口語詩にチャレンジ！

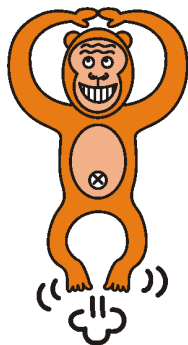
わずかな時間も軽んじてはいけないよ。

組

番

③友だちからのコメント
ここがよかったよ！

ことわざ・故事成語



（中国・春秋時代の思想家）
孔子

巧言令色
鮮し仁

すくな

①声に出して読もう！

（例）

②口語詩にチャレンジ！

気をつけよう。
話がおもしろく、表情が巧みな人に、
そういう人の中で、
誠実な心をもった人は少ないのだ。

組

番

③友だちからのコメント
ここがよかったよ！

①声に出して読もう！
故郷

兎追ひし かの山
うさぎ
小鮒釣りし かの川
こぶな
夢は今も めぐりて
忘れがたき 故郷
ふるさと

高野 辰之 作詞

童謡、唱歌



①声に出して読もう！

赤とんぼ

夕焼け小焼けの
赤とんぼ
負はれて見たのは
いつの日か

三木 露風 作詞

童謡、唱歌



②口語詩にチャレンジ！

うさぎを追いかけたあの山、
ふなを釣ったあの川、
今となつては夢でしか見られないが、
今も忘れることのできない故郷よ。

組 番

③友だちからのコメント
ここがよかったよ！

友だちからのコメント
ここがよかったよ！

②口語詩にチャレンジ！

夕焼けに赤とんぼが飛んでいるなあ。
幼い日におんぶされて見たのは、
いつの頃だったろう。
ああ、懐かしいことだ。

組 番

③友だちからのコメント
ここがよかったよ！

友だちからのコメント
ここがよかったよ！

① 声に出して読もう！
仰げば尊し

仰げば尊し 我が師の恩
教への庭にも はや幾年
思へばいと疾し この年月
今こそ別れめ いざさらば

作詞者不詳

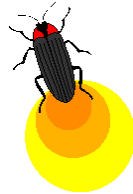
童謡、唱歌



① 声に出して読もう！

蛍の光

蛍の光 窓の雪
書読む月日 重ねつつ
いつしか年も すぎの戸を
あけてぞ けさは別れゆく



稲垣 千穎 作詞

童謡、唱歌

蛍の光 窓の雪…中国の故事より。
「蛍雪の功」。
苦学の成果。
すぎ…「過ぎ」と「杉」の掛詞。
あけ…「明け」と「開け」の掛詞。

組 番

例 ② 口語詩にチャレンジ！

思い起こせば先生から受けたご恩は
有り難いことだったなあ。
この学校に来てもう数年がたった。
思い起こせば、とてもはやく感じる
この年月よ。今お別れしましょう。
では、さようなら。

③ 友だちからのコメント
ここがよかったよ！

組 番

例 ② 口語詩にチャレンジ！

蛍の光や雪に反射して
窓から差し込む月の光、
その光で書物を読む日々を重ねてきた。
いつの間にか年月が過ぎ去り、
今朝は杉でできた扉を開けて別れてい
く。

③ 友だちからのコメント
ここがよかったよ！

番

①声に出して読もう！

春眠曉を覚えず
処処啼鳥を聞く
夜来風雨の声
花落つること知る多少

孟浩然
（中国・唐代の思想家）

多少…「少」は助字。多いこと。

漢詩



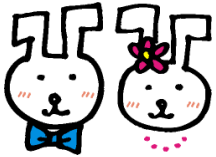
①声に出して読もう！

まだあげ初めし前髪の
林檎のもとに見えしとき
前にさしたる花櫛の
花ある君と思ひけり

島崎藤村
（明治～昭和期の詩人・作家）

髪をあぐ…大人の女性の髪型になる。
花櫛…花のようなデザインの髪飾り。

詩



組

番

例 ②口語詩にチャレンジ！

春の眠りに明けそめたとも知らなかつた。
あちらでもこちらでもさえざる鳥の声が聞こえる。

そうだ、ゆうべは風雨の音がしていた。花びらはどれほど多く散ったのだろう。

③友だちからのコメント

ここがよかったよ！

組

番

例 ②口語詩にチャレンジ！

まだ結び上げたばかりの君の前髪が林檎の木の下に見えたとき、その前髪に挿している花櫛の花のように、君のことを美しいと思ったんだよ。

③友だちからのコメント

ここがよかったよ！

俳句



這へ笑へ
二つになるぞ
けさからは

（江戸 文化・文正期の俳人）

一茶

①声に出して読もう！

（例）

②口語詩にチャレンジ！

（娘よ）もっとハイハイしなさいよ、
笑いなさいよ。

二歳（満一歳）になるんだよ、

今朝からは。

おめでとう！

（娘の亡くなる前に詠んだ句）

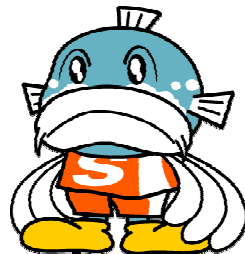
③友だちからのコメント

ここがよかったよ！

組

番

俳句



行く春や
鳥啼^なき
魚^{うを}の目は泪^{なみだ}

（江戸 元禄期の俳人）

芭蕉

①声に出して読もう！

（例）

②口語詩にチャレンジ！

春はもう行こうとしている。
去り行く春の愁いは、無心な鳥や魚ま
で感ずるとみえ、鳥は悲しげになき、
魚の目は涙があふれているようだ。

組

番

①声に出して読もう！

瓶かめにさす

藤の花ぶさみじかければ
たたみの上に
とどかざりけり

正岡 子規

（明治期の歌人・俳人）



瓶：花瓶

藤の花：マメ科フジ属。五〜六月（晩

春）に淡紫色または白色の蝶
型の花を長い花穂で垂れる。

短歌

組

番

（例）②口語詩にチャレンジ！

花瓶に挿す藤の花ぶさが短いので、置
の上にとどかないでいるなあ。

（今を盛りに美しい花を咲かせる藤で
はあるが、私の命同様、その花ぶさは
短いのだ。この光景は、重い病に伏す
私から見える全世界である。）

③友だちからのコメント

ここがよかったよ！

組

番

①声に出して読もう！

住の江の

岸に寄る波よるさへや
夢の通ひ路
人目よくらむ

藤原 敏行

（平安期の歌人）



住の江の岸に寄る波：「よる」の序詞。
よる…「寄る」と「夜」の掛詞。

「夢」の縁語。

よく…よける。避ける。

夢の通ひ路：古くは、恋人を想うと心が
身体から遊離し、夢に現れ
るといふ信仰があった。

和歌

組

番

（例）②口語詩にチャレンジ！

花瓶に挿す藤の花ぶさが短いので、置
の上にとどかないでいるなあ。

（今を盛りに美しい花を咲かせる藤で
はあるが、私の命同様、その花ぶさは
短いのだ。この光景は、重い病に伏す
私から見える全世界である。）

③友だちからのコメント

ここがよかったよ！

組

番

（例）②口語詩にチャレンジ！

あの住の江の岸に波が寄るように私はあ
なたに会いたい。人目の気になる夜でも
ないのに、ましてや、夢の中の通ひ路で
さえ、どうしてもあなたは人目を避けて逢
いにきていただけなのでしょうか。
（私への想いはないのでしょか。）

③友だちからのコメント

ここがよかったよ！

①声に出して読もう！

明日ありと

思ふ心の仇桜あだ

夜半よはに嵐の

吹かぬものかは

親鸞

（鎌倉期の思想家）



仇…むなしいさま。移ろいやすく頼り
ないさま。

夜半…夜中。夜。

かは…くだろうか。いや、くではない。

（反語表現）

和歌

①声に出して読もう！

やまとうたは

人の心を種として

万よろの言の葉とぞ

なれりける

古今和歌集 仮名序

紀 貫之

（平安期の歌人）

やまとうた…からうた（漢詩）に対する語。

日本固有の歌。和歌。

評論



②口語詩にチャレンジ！

桜を見るのは明日でもよいと思う気持ち
ちはむなしいものだ。真夜中に嵐が吹
き、桜が散ってしまったわないと誰が言え
ようか。嵐が吹くこともあるのだ。

（この世は無常である。）

組

番

③友だちからのコメント

ここがよかったよ！

組

番

②口語詩にチャレンジ！

日本の和歌は、たとえて言えば、人の
心を種として、そこから生い茂り、さ
まざまな言語の葉になっているのだな
あ。

③友だちからのコメント

ここがよかったよ！

①声に出して読もう！

ゆく河の流れは絶えずして、
しかももとの水にあらず。
よどみに浮ぶうたかたは、
かつ消え、かつ結びて、
久しくとどまりたる
ためしなし。
世の中にある人と栖すみと、
またかくのごとし。

方丈記

鴨 長明

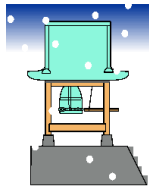
（鎌倉期の歌人・随筆家）



随筆

①声に出して読もう！

祇園精舎の鐘の聲、
諸行無常の響きあり。
娑羅双樹の花の色、
盛者必衰の理をあらはす。
おごれる人も久しからず、
唯春の夜の夢のごとし。



平家物語

作者未詳

祇園精舎：祇園は祇樹給孤独園の略。

釈迦が説法したと言われる

大寺。

諸行無常：万物は常に変化して少しの間もとどまらない。

物語

組

番

例 ②口語詩にチャレンジ！

ゆく川の流れは絶えることがなく、
それでいて目の前を流れている水はもとの水ではない。
流れのよどみに浮かぶ水の泡も、
あちらで消えたかと思うと、
こちらでできていたりして、
決していつまでもそのままではない。
世間の人も、
その住居も、
やはりこの調子だ。

③友だちからのコメント

「こころがよかったよ！」

組

番

例 ②口語詩にチャレンジ！

祇園精舎にある鐘の音は、
諸行無常の教えを唱えるように鳴り響く。
釈迦入滅の際に枯れて白くなったといわれる娑羅双樹の花の色は、
まるで盛者必衰の道理を表している。
おごり高ぶった人も、
いつまでも長くは続かない。
ただ春の夜の夢のように
はかないものだ。

③友だちからのコメント

「こころがよかったよ！」

①声に出して読もう！

京には見えぬ鳥なれば、
みな人見しらず。

伊勢物語
作者未詳

都近くなりぬ。

土佐日記
紀貫之

（平安期の歌人）

物語・語の識別



①声に出して読もう！

うつくしきもの
瓜にかきたるちごの顔。
雀の子のねず鳴きするに
をどり来る。

枕草子

清少納言

（平安期の作家・歌人）

随筆・語の識別



組

番

（例）②口語詩にチャレンジ！

京には見かけない鳥なので、だれも
知らないよ。
伊勢物語

都が近くなったよ。
土佐日記

③友だちからのコメント
ここがよかったよ！

組

番

（例）②口語詩にチャレンジ！

かわいらしいものといえば
瓜に描いてある幼児の顔。
雀の子が、ちゅちゅとねずみの鳴き
真似をして呼ぶと、おどるようにして
来るの。

③友だちからのコメント
ここがよかったよ！

秋来ぬと

目にはさやかに見えねども
風の音にぞ
おどろかれぬる

藤原 敏行

（平安期の歌人）

①声に出して読もう！

組

番

（例）②口語詩にチャレンジ！

「ああ、秋が来たな」と、目にははつきり見えないけれども、風の音を耳にすれば、おのずからはつと秋の訪れを感じさせられることだなあ。

和歌・語の識別

さやか：…（視覚的に）はつきりしている。

明瞭である。

おどろく：…はつとして気づく。

眠りから覚める。

目覚める。



③友だちからのコメント

ここがよかったよ！

組

番

湖南・和歌

里人は衣打つなり
信楽の外山の秋や
夜さむなるらむ

（南北朝の歌人）

頓阿 とんあ

衣打つ：…洗った衣や織った布を木槌等で打ち、柔らげること。女性の夜なべの仕事。

外山：…人里近い山。



（例）②口語詩にチャレンジ！

里人の衣を打つ音が夜の静寂に響き渡る。信楽の外山の秋は、しみじみとした夜寒なのだろうか。

③友だちからのコメント

ここがよかったよ！

組

番

①声に出して読もう！

世にふれば

またも越えけり鈴鹿山

昔の今になるにやあるらん

さいべうのにやうし
齋宮 女御

（平安期の歌人）

鈴鹿山：甲賀市土山町と三重県境の山々。

鈴鹿の関は古代三関の一つ。

「鈴」は、「ふれ」（振れ）と
「なる」（鳴る）の縁語。



湖南・和歌

①声に出して読もう！

秋の夜の月の光し明かければ

蔵部の山も越えぬべらなり

ありはらのもとかた
在原 元方

（平安期の歌人）

蔵部の山：現在の甲賀市にある杣山。

壬申の乱の時の陣地。甲賀

市の寺庄・大原・油日の辺

りを蔵部郷という。ここで

は、「暗い」の掛詞。

べらなり：～ようだ。

湖南・和歌



組

番

（例）②口語詩にチャレンジ！

世に生きながらえると、またも越える
ことになってしまいましたよ、この鈴
鹿山を。懐かしい昔の日々が今となる
のでしょうか。

③友だちからのコメント

ここがよかったよ！

組

番

（例）②口語詩にチャレンジ！

秋の夜の月の光が明るいので、その名
も暗いという蔵部の山も、越えてしま
えそうだ。

③友だちからのコメント

ここがよかったよ！

横田山

いしべが原のよもぎふに
秋風寒み都恋ひしも

鴨 長明
(鎌倉期の歌人・随筆家)

横田山：甲賀市水口町泉の西南の横
田川を隔てて草津線の線路
に迫るところにある山。

よもぎふ：よもぎなどの雑草が生い
茂った、荒れたところ。



湖南・和歌

①声に出して読もう！

組

番

①声に出して読もう！

組

番

音に聞く野洲の懸橋^{かけはし}かけてのみ
嘆きぞわたる心ひとつに

さがみ
相模
(平安期の歌人)

音…うわき。
心ひとつに…一途に思つこと。

(例) ②口語詩にチャレンジ！

あの名高い野洲の懸け橋ではないが、
あなたのことを思いにかけてばかり、
嘆き続けているのです。ただ一途に。

湖南・和歌



③友だちからのコメント
ここがよかったよ！

③友だちからのコメント
ここがよかったよ！

(例) ②口語詩にチャレンジ！

横田山の側を通る東海道を歩いている
と、石部の野原の雑草が生い茂ってい
るのが見える。秋風が身を刺すように
寒いので、都が恋しくて仕方ないのだ。

①声に出して読もう！

ときは
常磐なる三上の山の杉群すまむらじや
やほよろづ代よのしるしなるらむ

ふぢはらのすあつね
藤原 季経
(平安・鎌倉期の歌人)

常磐：松・杉など、木の葉の常に緑色で
色を変えないこと。
やほよろづ：数がきわめて多いこと。

湖南・和歌



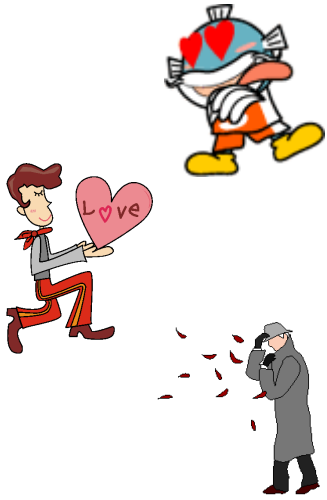
①声に出して読もう！

世の中はうきふししげし篠原しのはらや
旅にしあれば妹夢いもにみゆ

ふぢはらのとしなり
藤原 俊成
(鎌倉期の歌人)

うきふし：辛いこと、悲しいこと。
妹：妻や恋人。

湖南・和歌



(例) ②口語詩にチャレンジ!
つねに緑の色の変わらぬ三上の山の杉群よ。いつまでも長い君の御代のしるしであろうか。

組 番

③友だちからのコメント
ここがよかったよ！

(例) ②口語詩にチャレンジ!
世の中は辛く悲しいことが多いなあ。旅の途上、この荒涼とした篠原の野路を通ると寂しさがこみ上げてくるよ。恋しいあなたと夢で逢うことだよ。

組 番

③友だちからのコメント
ここがよかったよ！

①声に出して読もう！

白露^{しろつゆ}も時雨^{しぐれ}もいたくもる山は
下葉^{したば}のこらず色づきにけり

紀貫之
(平安期の歌人)

もる…地名の「守山」と「漏る」の
掛詞。

時雨…秋の終わりに降ったりやんだ
りする雨。「葉」の縁語。



湖南・和歌

①声に出して読もう！

明日も来む
野路の玉川萩こえて
色なる浪に月宿りけり

みなもとのとしより
源俊頼
(平安期の歌人)

色なる浪…浪に花の色が映っている
こと。

湖南・和歌



組

番

(例) ②口語詩にチャレンジ！

白露も時雨もひどく漏るといふ守山で
は、下葉まで残らず紅葉してしまった
ことだよ。

③友だちからのコメント
ここがよかったよ！

組

番

(例) ②口語詩にチャレンジ！

明日も来ようよ。野路の玉川に。萩を
越えて寄せる波に、花の色が映り、そ
の波に月の光が宿っていることよ。

③友だちからのコメント
ここがよかったよ！

①声に出して読もう！

にほてるや

矢橋やばせの渡りする舟を

いくたびみつつ勢田の橋守



源みなもとの兼昌かねまさ

（平安期の歌人）

矢橋…草津市矢橋町。近江八景「矢橋の帰帆」。

にほてるや…矢橋などの琵琶湖周辺の地名に用いた枕詞。

渡り…水の上を越えて向こうへ行く。

航海する意。

橋守…橋を守る人。橋番。



湖南・和歌

①声に出して読もう！

引きわたす勢田の長橋空晴れて
くまなく見ゆる望月の駒

藤原ふぢはらの顕季あきすゑ

（平安期の歌人）

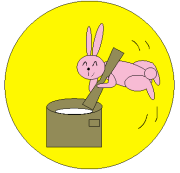
勢田の長橋…現在の瀬田の唐橋。

志賀・栗田二郡の境。

望月…満月。

駒…馬。ここでは信濃（今の長野県）か

ら朝廷への貢ぎ物。



湖南・和歌

組

番

（例）②口語詩にチャレンジ！

矢橋に向かつて漕ぐ舟を、何度も見ているよ、瀬田の橋の番人は。何を考えながら見ているのだろう。

③友だちからのコメント

ここがよかったよ！

組

番

（例）②口語詩にチャレンジ！

瀬田川を渡る長橋の夜空が美しく晴れ渡っている。
とても明るい満月の下、引き連れられて歩く馬の美しいことよ。

③友だちからのコメント

ここがよかったよ！

都にも人や待つつらむ

石山の峰に残れる秋の夜の月

ふちはらのながよし
藤原 長能
(平安期の歌人)

石山…石山寺のことを指す。

①声に出して読もう！

組
番

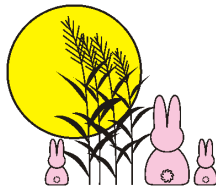
(例) ②口語詩にチャレンジ!

ここから西に位置する都でも、人は待っているのだろうか。

石山の峰に残っている秋の夜の月を。

③友だちからのコメント
ここがよかったよ!

湖南・和歌



楽浪や

志賀の都は荒れにしを
むかしながらの山 桜かな

たひらのただのり
平 忠度
(平安期の歌人)

①声に出して読もう！

組
番

(例) ②口語詩にチャレンジ!

志賀の都(天智天皇の大津京)は荒れてしまったのに、昔と変わらず長等の山桜は美しく咲いていることよ。

③友だちからのコメント
ここがよかったよ!

湖南・和歌



楽浪…志賀の枕詞。
ながら…「ながら」と「長等」の掛詞。
山桜…長等山(大津市)の桜のこと。
山麓に三井寺があり、桜の名所として名高い。

③友だちからのコメント
ここがよかったよ!

①声に出して読もう！

これやこの

行くも帰るも別れつつ

しるもしらぬも逢坂の関あふさか

蝉丸せみまる

（平安期の歌人）

逢坂の関：山城国（現在の京都府）と

近江の国（滋賀県）の境にあつた関所。この関の東側が東国とされた。

逢坂：「逢ふ」の掛詞。

湖南・和歌



①声に出して読もう！

駒並うちなめて

打出うちでの浜を見わたせば

朝日にさわぐ志賀の浦波

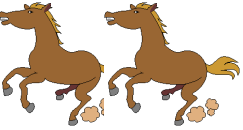
後鳥羽院

（鎌倉期の歌人）

打出の浜：大津市石場、馬場付近の浜。

枕草子に「浜は打出の浜」とある。

湖南・和歌



組

番

例 ②口語詩にチャレンジ！

これがあの、京の都から出て行く人も帰ってくる人も、知人も他人も、皆ここで、別れたり出会ったりするという、有名な逢坂の関なのだなあ。

③友だちからのコメント
ここがよかったよ！

組

番

例 ②口語詩にチャレンジ！

馬を並べて出て、打出の浜を見わたすと、折からの朝日に志賀の浦の浦波が白々と波立ち荒れていることだなあ。

③友だちからのコメント
ここがよかったよ！

①声に出して読もう！

たなかみ
田上や

瀬々の早瀬に梁さして
夜としなれば浮寝をぞする

そねのよしただ
曾禰 好忠
(平安期の歌人)

田上…大津市田上。月の名所。

瀬田川に注ぐ田上川が流れる。

梁…魚を捕る仕掛け。

浮寝…水の上に寝ること。「憂き」寝に掛けてある。



湖南・和歌

あはづの
栗津野の

すぐろのすすきつのぐめば
冬立ちなづむ駒ぞいばゆる

①声に出して読もう！



じやうあん
静 円
(平安期の歌人)



栗津…大津市膳所、中庄付近。

すぐろのすすき

…春、野を焼いた原で、穂先が黒く焼
け焦げたすすき。

つのぐめば…芽が角のように出はじ
めること。

冬立ちなづむ…冬の間、立ちしおれて
いた馬の様子。

湖南・和歌

組

番

(例) ②口語詩にチャレンジ！

田上の、流れの早い瀬ごとに梁をさし
て、舟の上に浮き寝をするように、夜
になると、心憂く寝ることよ。さびし
いなあ。

③友だちからのコメント

ここがよかったよ！

組

番

(例) ②口語詩にチャレンジ！

栗津野の、焼け焦げたすすき原に、芽
が角のように出はじめる頃になると、
冬の間立ちしおれていた馬も、生き生
きといななこうとする。

③友だちからのコメント

ここがよかったよ！

①声に出して読もう！

わが命し

真まさ幸さきくあらばまたも見む

志賀の大津に寄する白波

穂積ほづみ老おゆ

（万葉期の歌人）

真幸くあらば…つつがなく無事で

あつたら。

志賀の大津…現在の唐崎辺りか。

湖南・和歌



①声に出して読もう！

淡海あふみの海

夕波千鳥な汝が鳴けば

心もしのに

いにしへ思ほゆ



柿本 人麻呂

（万葉期の歌人）

淡海あふみの海…琵琶湖の古称。「近江」。

別名「鴉カの海」。

「とほつあふみ」（浜名湖）に
対して「ちかつあふみ」とも。

しのに…（露などで）しっとり濡れて。

（悲しみなどで）しっとり、し

みじみした気分になって。

湖南・和歌

組

番

（例）②口語詩にチャレンジ！

私の命がもしつつがなくあつたらまた
再び行って見よう、志賀の大津の浜に
寄せるあの美しい白波を。

③友だちからのコメント

ここがよかったよ！

組

番

（例）②口語詩にチャレンジ！

近江のうみの夕べの浪よ、千鳥よ。
おまえたちが鳴くと、私の心も沈み、
昔のことが偲おもばれるのだ。

③友だちからのコメント

ここがよかったよ！

甲賀衆の

しのびの賭や

夜半の秋

燕村
（江戸中期の俳人）

①声に出して読もう！

甲賀衆…甲賀者ともいわれる。江戸

幕府に仕えて鉄砲同心を勤めた甲賀の地侍出身者。隠密に秀でたといわれる。

しのび…忍術。

湖南・俳句



①声に出して読もう！

かみむかへ
神迎

水口だちか

馬の鈴

ちんせき
珍碩
（江戸元禄期の俳人）

神迎…十月の晦日の行事。神無月で

出雲に集合していた神々が再び各所の神社に帰ってくる。

湖南・俳句



組

番

（例）②口語詩にチャレンジ！

秋の夜長に退屈した忍びの者たちが、ひそかに忍術比べの賭をしてヒマをつぶしている。

（忍びのプロは、サボるときにもやはり、忍びながらサボるんだよ。）

③友だちからのコメント
ここがよかったよ！

組

番

（例）②口語詩にチャレンジ！

神迎えの今朝早く、鈴の音を響かせながら出発した馬は水口の宿場立ちなのだろう。

③友だちからのコメント
ここがよかったよ！

命二つの

中に生いきたる

桜哉かな

①声に出して読もう！



芭蕉

（江戸元禄期の俳人）

桜：…現在の甲賀市水口町にある横田橋付近に咲いていたとされる桜。ここで芭蕉は二十年ぶりに同郷出身の服部土芳と奇跡的に再会する。

湖南・俳句



①声に出して読もう！

合羽つづく

雪の夕べの

石部駅

正岡 子規
（明治期の俳人・歌人）



湖南・俳句



組

番

（例）②口語詩にチャレンジ！

再び出会えるなどと思ってみただろうか。旧友との奇跡的な再会（服部土芳との二十年ぶりの再会）を果たし、命あることの喜びに浸りながら見上げてみると、満開の桜がいつそう生き生きと二人の目に映えたんだよ。

③友だちからのコメント
ここがよかったよ！

組

番

（例）②口語詩にチャレンジ！

「京立ち石部止まり」といわれたように、京都を出発した旅人が最初に泊まった石部の宿場。今日の夕べは雪模様。合羽を着た人々が列をなして歩いている。

③友だちからのコメント
ここがよかったよ！

①声に出して読もう！

へそむらの
まだ麦青し
春のくれ

芭蕉
（江戸元禄期の俳人）

へそむら…現在の栗東市にある地名。
へそむら
縹村。栗東駅がある。

湖南・俳句



①声に出して読もう！

名月は
ふたつ過ぎても
瀬田の月

芭蕉
（江戸元禄期の俳人）

組

番

（例）②口語詩にチャレンジ！

ずっとあちこちと旅してきたが、ここ
縹村のあたりの麦はまだ青い。種まき
が遅れたのか、寒かったのか。もう間
もなく春も暮れようとしているのに。

③友だちからのコメント

ここがよかったよ！

組

番

（例）②口語詩にチャレンジ！

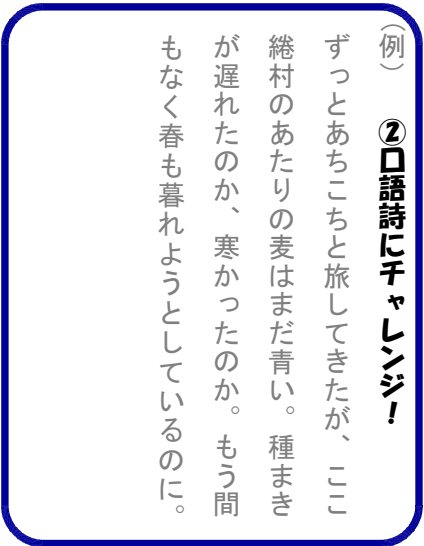
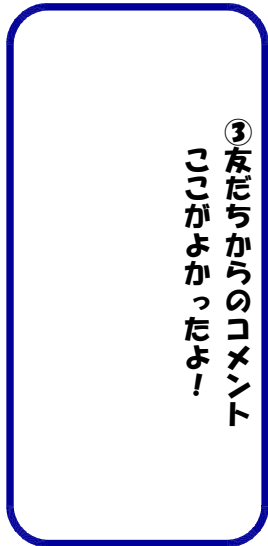
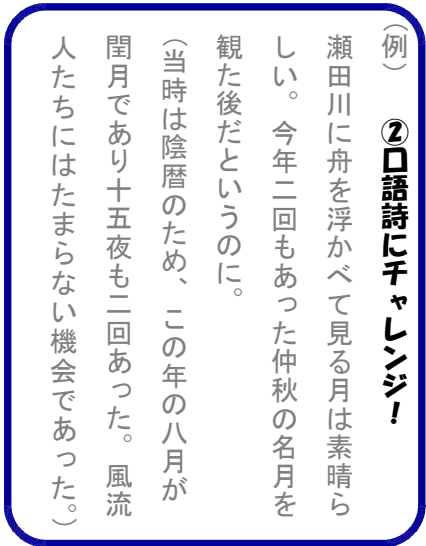
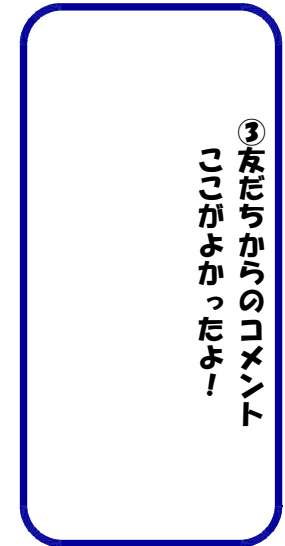
瀬田川に舟を浮かべて見る月は素晴ら
しい。今年二回もあった仲秋の名月を
観た後だというのに。

（当時は陰暦のため、この年の八月が
閏月であり十五夜も二回あった。風流
人たちにはたまらない機会であった。）

③友だちからのコメント

ここがよかったよ！

湖南・俳句



ほたる見や
船頭酔ようて
おぼつかな



芭蕉

（江戸元禄期の俳人）

ほたる見…石山の螢谷付近の瀬田川で
蝿合戦を見るために船を浮
かべる。

①声に出して読もう！

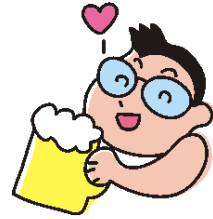
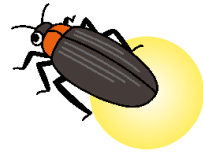
組

番

（例）②口語詩にチャレンジ！

瀬田川へ螢見の船を出して一献傾けて
いたら、なんとまあ、船頭が酔ってし
まって、この流れを漕ぐには頼りなく
なってしまったよ。

湖南・俳句



①声に出して読もう！

組

番

③友だちからのコメント
ここがよかったよ！

大津絵の

筆のはじめは

何仏

芭蕉

（江戸元禄期の俳人）



湖南・俳句

（例）②口語詩にチャレンジ！
正月といえば書き初めだが、大津絵の
絵師たちは一年の最初にどの仏の姿か
ら描き始めるのかな。

③友だちからのコメント
ここがよかったよ！

三井寺の
門た敲かばや
今日の月

①声に出して読もう！



芭蕉
（江戸元禄期の俳人）

湖南・俳句

辛崎の
松は花より
朧おぼろにて

①声に出して読もう！



芭蕉
（江戸元禄期の俳人）

湖南・俳句

（例）
②口語詩にチャレンジ！
今夜の月は素晴らしい。修行しているお坊さんたちにも教えてあげようよ。三井寺の門をたたいて。

組
番

③友だちからのコメント
ここがよかったよ！

（例）
②口語詩にチャレンジ！
琵琶湖の水面に霞が立ちこめる中で、唐崎の松が朧気に美しく見えることよ。桜よりも情緒豊かにさえ見えるものだなあ。

組
番

③友だちからのコメント
ここがよかったよ！

行く春を

近江の人と

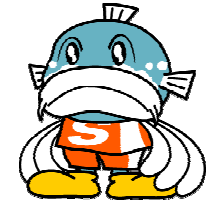
惜しみける

①声に出して読もう！

（江戸元禄期の俳人）

芭蕉

湖南・俳句



①声に出して読もう！

あかねさす紫野行き標野行き

野守は見^のみ^りずや君^そが袖^で振る

額^{ぬかたのおほきみ}田王

（万葉期の女流歌人）

あかねさす：紫・日などの枕詞。

さす：色や光を発すること。

紫野：紫草を栽培してある野。紫は最

高級の服の色。

標野：皇室などの所有する原野。獵場

などにされ、一般の立ち入りを

禁じた所。

野守：禁獵の野を守る番人。

湖東・和歌



（例）②口語詩にチャレンジ！

春光うららかにかすむ琵琶湖の湖上に、去りゆくこうとする春の情緒がたゆとうている。

この春を、私はこの近江の国の人々とともに、心ゆくばかりに惜しんだことだ。

組 番

③友だちからのコメント
ここがよかったよ！

（例）②口語詩にチャレンジ！

紫草の生える野に、標野に狩りに行って、あなたは私に袖を振っておられる。野の番人が見て気付くではありませんか。
（許されない愛なのに。）

③友だちからのコメント
ここがよかったよ！

組 番

紫草むらさきのほへる妹いも

憎くあらば

人妻あれゆゑに我恋あひめやも

大海人皇子おほあまのみこ

（天武天皇・万葉期の歌人）

にほへる…：つややかに美しい。かおる。
めやも…：反語。

① 声に出して読もう！

組

番

（例） ② 口語詩にチャレンジ！

紫草のように美しくにおうあなたを憎
いと思ったら、人妻と知りながら恋を
するでしょうか。いや、いたしません。

湖東・和歌



① 声に出して読もう！

組

番

東路あづまぢの思おもひ出でにせむほととぎす郭公ほととぎす
老蘇おいその杜もりの夜半よはのひとこゑ一声ひとこゑ

大江公資おほえのきんより

（平安期の歌人）

東路…：京都から東海道、東山道を経て

東国へ通う道筋。

郭公…：鳥の名。「時鳥」「子規」「不如

帰」などとも書く。初夏に鳴き、

その声が人の叫び声に似ている

ので、人恋しさを誘うとされた。

老蘇の杜…：安土町の奥石神社おいその森。

近江国の歌枕。本歌以後、

郭公の詠まれることが多く
なり、名所化された。

湖東・和歌



（例） ② 口語詩にチャレンジ！

都へ行く途中の思い出ししよう。
老蘇の森の夜に聞くほととぎすのこの
一声を。

③ 友だちからのコメント

ここがよかったよ！

（例） ③ 友だちからのコメント

③ 友だちからのコメント
ここがよかったよ！

鏡山 かがみやま

山かき曇りしぐるれど
もみぢ赤くぞ秋は見えける

素性
（平安期の歌人）

鏡山…竜王町と野洲市の境、三上山の東の山。

かき曇り…「曇り」は鏡の縁語。

①声に出して読もう！

湖東・和歌



①声に出して読もう！

水茎みづぐきの岡くずはの葛葉くずはも色づはぎはきて
今朝はつかぜうら悲し秋の初風



顕昭
（平安・鎌倉期の歌人）

水茎の丘…琵琶湖の辺り、近江八幡の西方、大小二つの峰の続く丘。現在は、安土にかけての大水郷地帯となつている。

うら悲し…「うら」は「心」という意。心がなしい。葛葉の「裏」と縁語。

湖東・和歌



組

番

（例）②口語詩にチャレンジ！

鏡山は、山がその名の鏡が曇るように、空が曇ってしぐれの雨が降ってきたけれど、もみぢはそれにもかかわらず赤く照り映えて、そこに今年の秋の風情が見えたことだよ。

③友だちからのコメント
ここがよかったよ！

組

番

（例）②口語詩にチャレンジ！

水茎の岡の葛の葉も色づいて、立秋の今朝は何となく悲しいなあ。秋の初風が吹き始め、葉裏を返すことだよ。

③友だちからのコメント
ここがよかったよ！

①声に出して読もう！

あまをぶね
海女小舟

浦わの里こゝに言ことつてよ

沖しまやまつ島山ほととぎす鳴く

かくしやうほつしんわう
覚性法親王

（平安期の歌人）

海女：海に入り貝や海藻を採る女性。
浦わ：岸の曲がって入り込んだ所。

湖東・和歌



①声に出して読もう！

近江路や

野島が崎の浜風に

夕波千鳥立ちさわぐなり

みぢはらのあきすけ
藤原 顕輔

（平安期の歌人）

野島が崎：東近江市能登川。

西は湖水。東は愛知。

夕波千鳥：人麻呂の「淡海の海夕波

千鳥」の歌を本歌として
いる。

湖東・和歌



組

番

（例）②口語詩にチャレンジ！

海女の小舟よ、浦わの里人に伝言して
おくれ。この沖の島の山にほととぎす
が鮮やかな声で鳴いていることを。

③友だちからのコメント

ここがよかったよ！

組

番

（例）②口語詩にチャレンジ！

近江路の、野島が崎の浜風に、夕波に
飛ぶ千鳥が立ちさわいでいることだよ。

③友だちからのコメント

ここがよかったよ！

①声に出して読もう！

夕霧に佐野の舟橋音すなり
手なれの駒の帰り来るかも

さだいべんとしまさのはは
左大弁俊雅母

（平安期の歌人）

佐野：…東近江市佐野町。

舟橋：…舟を並べて綱でつなぎ、それに板を渡して橋としたもの。

手なれの駒：…飼い慣らした馬。

湖東・和歌



①声に出して読もう！

淡海路の鳥籠の山なる不知哉川
日のこのごろは
恋ひつつもあらむ

岡本天皇
（万葉期の歌人）

不知哉川：…芹川のこと。「いさ」すな

わち「知らない」にかかる。

鳥籠の山：…彦根の東北にある正法寺山。

不知哉川の川口付近の琵琶湖を「鳥籠の浦」「鳥籠の海」と称した。

湖東・和歌



組

番

（例）②口語詩にチャレンジ！

夕霧に紛れて見えない佐野の舟橋に足音がするようだ。耳慣れたあの足音。どうやら飼い慣らしたあの馬が帰って来るようだ。

③友だちからのコメント
ここがよかったよ！

組

番

（例）②口語詩にチャレンジ！

近江路の鳥籠の山辺の不知哉川ではありませんが、先のことはわかりません。ここしばらくは恋い慕いながら生きていきましょう。

③友だちからのコメント
ここがよかったよ！

旅衣ほころびぬれや

すり針の峠に来ても

ぬふ人のなき

いちでうかねよし
一条 兼良

（室町期の古典学者・歌人）

すり針の峠：磨針峠。旧中山道の宿

場鳥居本と番場の間に
ある峠。

①声に出して読もう！

組
番

（例）②口語詩にチャレンジ！

旅の装束もほころび、濡れてしまったよ。針の名の付くこの磨針峠に来ても縫い直してくれる人のいない寂しさよ。

湖東・和歌



①声に出して読もう！

組
番

菟蓐こんにやくの

さしみもすこし

梅の花



芭蕉

（江戸元禄期の俳人）

菟蓐：永源寺（東近江市）地区の特産品。



湖東・俳句

組
番

③友だちからのコメント
ここがよかったよ！

（例）②口語詩にチャレンジ！

大切な人の死を悼み、好物だったこんにやくの刺身を供えて冥福を祈る。庭には梅の花が咲いている。春はもう近い。

③友だちからのコメント
ここがよかったよ！

みちばたに

多賀の鳥井の

寒さ哉かな

尚しやう白はく

（江戸元禄期の俳人）

①声に出して読もう！

組
番

（例）②口語詩にチャレンジ！

名高いこの神社の大鳥居も琵琶湖から吹き付けてくる冬の風に耐えかねたように寒々として立っている。

湖東・俳句

多賀…多賀町にある神社。大鳥居で知られる。

鳥井…鳥居。

寒



①声に出して読もう！

組
番

③友だちからのコメント
ここがよかったよ！

水鳥かがりひや

篝火多かき

安土城

柳原極堂やなぎはらきよくどう

（明治期の俳人）



安土城…織田信長によって築かれた城。安土桃山文化の粋を集めて装飾された。

湖東・俳句



③友だちからのコメント
ここがよかったよ！

（例）②口語詩にチャレンジ！

琵琶湖の湖面には水鳥が穏やかに泳いでいる。昔日の戦乱の面影が偲ばれる安土城であることよ。

鮒^{ふな}ずしや

彦根の城に

雲かかる

①声に出して読もう！

蕪村

（江戸中期の俳人）

鮒ずし…滋賀県の名産。馴^{なれずし}鮒の一種。
夏の季語。

湖東・俳句



ひるがほに

昼寝せうもの

床^{とこ}の山

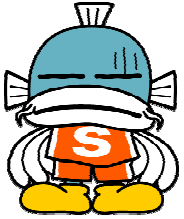
①声に出して読もう！

芭蕉

（江戸元禄期の俳人）

ひるがほ・昼寝…韻を踏んでいる。
床の山…彦根市西方の丘陵。烏籠山。
「床」と「寝」は縁語。

湖東・俳句



（例）②口語詩にチャレンジ！

この鮒ずしのおいしいことよ。ここは
近江の国。優美な彦根城には夏の雲が
かかっているよ。

組

番

③友だちからのコメント

ここがよかったよ！

組

番

（例）②口語詩にチャレンジ！

本来なら昼顔の咲き乱れる床の山にお
寄りし、あなたと一緒に昼寝でもして
旧交を温めたいのですが、残念ながら
訳あってお会いできないのです。

③友だちからのコメント

ここがよかったよ！

有乳山
あらちやま

雪げの空になりぬれば

海津の里にみぞれ降りつつ

ふぢはらのなかざね
藤原 仲実

（平安期の歌人）

①声に出して読もう！

組

番

（例）②口語詩にチャレンジ！

向こうに見える有乳山が今にも雪の降りそうな空模様になったと思ったら、この海津の里にはみぞれが降り続いていることだよ。

有乳山：…高島から敦賀に越える途中の山。雪の深い名所として

歌われる。

海津：…今津・塩津とともに湖北三港。

北陸路につながる主要な地点。



湖西・和歌

①声に出して読もう！

組

番

高島の阿渡川波は騒けども

我は家思ふ宿り悲しみ

読み人知らず

（万葉期）

阿渡川：…安曇川。河口の船着き場は

「阿渡の水門」といわれた。



湖西・和歌

③友だちからのコメント
ここがよかったよ！

（例）②口語詩にチャレンジ！

高島の阿渡の川波はにぎやかに騒いでいるけれども、私は故郷の家を思い、家族を思うと懐かしさと不憫さに胸がつぶれます。旅寝の悲しさがいつそう身にしみて悲しくなるばかりです。

③友だちからのコメント
ここがよかったよ！

①声に出して読もう！

いづくにかわが宿りせむ

高島の勝野の原に

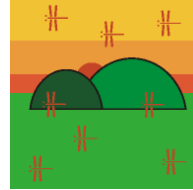
この日暮れなば

たけちのくろひと
高市 黒人

（万葉期の歌人）

勝野…高島市勝野。

湖西の白鬚神社のすぐ北あたり。
宿り…旅の途中の仮り寝の場所を求め
ること。



湖西・和歌

①声に出して読もう！

思ひつつ

来れど来かねて水尾の崎

真長の浦をまたかへり見つ

ごし
碁師
（万葉期の歌人）

水尾の崎…三尾が崎。現在の高島市

明神崎。三尾山が湖岸ま
で突き出た岬。

真長の浦…水尾の崎の北。荻の浜。



湖西・和歌

組

番

（例）②口語詩にチャレンジ！

今夜はどこに仮り寝の場所を求めよう。
高島の勝野の原で今日のこの日が暮れ
てしまったら。宿るべき家もないだろ
う。

③友だちからのコメント

ここがよかったよ！

組

番

（例）②口語詩にチャレンジ！

憧れて遂に来たけれど、これまではあ
まりの美しさに来ることができなかつ
たんだよ。その水尾の崎から見る美し
い真長の浦の景色を振り返ってまた見
たんだよ。

③友だちからのコメント

ここがよかったよ！

①声に出して読もう！

月清み足利あしりの海を漕ぎゆけば
千鳥しばなく三尾みが崎まで

みなものありふさ
源 有房
(平安期の歌人)

み…原因・理由をあらわす接尾語。

多くは上に助詞「を」を伴う。

三尾が崎…水尾の崎。現在の高島市

明神崎。三尾山が湖岸ま

で突き出た岬。

しばなく…しばしば鳴く。



湖西・和歌

①声に出して読もう！

三尾の海に
網引く民のひまもなく
立ち居につけて都恋しも

紫 式部
(平安期の作家・歌人)

ひまもなく…絶え間なく。休むこと
もなく。

立ち居…立ったり座ったり。

湖西・和歌



(例) ②口語詩にチャレンジ！

月光が清らかなので、足利の海を漕いでゆくと、千鳥がたびたび鳴くよ、三尾が崎まで。

組

番

③友だちからのコメント
ここがよかったよ！

(例) ②口語詩にチャレンジ！

三尾の岸辺で手を休める暇もなく網を引いている漁民たち。その動作を見ると、ここはもう都ではないのだと思ひ知り、都が恋しくて仕方がないので。

組

番

③友だちからのコメント
ここがよかったよ！

①声に出して読もう！

白髭しらひげの神みまへの御前みまへにわくいずみ
これをむすべば人の清まる

与謝野 鉄幹・晶子
（明治期の歌人）

白髭…白髭神社。湖に浮かぶ鳥居も有名。三尾の浜に立つ。

湖西・和歌



①声に出して読もう！

名にしおはば
常は万木ゆゑのみぎの森にしも
いかでか鷺さぎのいはやすく寝ぬる



登蓮とうれん
（平安期の歌人）

名にしおはば…そういう名をもって
いる。

万木…高島市の地名。「揺るぎ」と
掛けてある。

いはやすく…「い」は眠る意。寝る
「こ」を「い」を寝る「
こ」は寝る「こ」いう。

湖西・和歌

組

番

（例）②口語詩にチャレンジ！

白髭神社の社前には清らかな泉が湧き
出ている。比良連峰の伏流水はほとば
しり、穢れなく、清々しい。人々の心
もきつと清まることですね。

（上の句を夫鉄幹が、下の句を妻晶子
が詠んだとされる。）

③友だちからのコメント
「こ」がよかったよ！

組

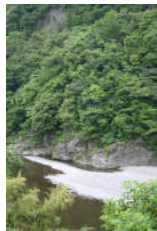
番

（例）②口語詩にチャレンジ！

揺るぎ動くという名をもっているとす
るならば、その名のようにいつも揺ら
いでいるはずの万木の森に、どうして
鷺は安らかに寝ているのだろうか。

③友だちからのコメント
「こ」がよかったよ！

花咲かぬ朽木の 杣の 杣人の
いかなるくれに思ひ出づらむ



ふちはらのなかがみ
藤原 仲文
(平安期の歌人)

杣…材木を切り出す山。

杣人…杣山のきこり。

くれ…「樽」(切り出したままの丸太)と「暮れ」とが掛詞になっている。

① 声に出して読もう！

組 番

(例) ② 口語詩にチャレンジ！

花の咲かない朽木の杣山の木こりが切り出す丸太ではないが、どのような夕暮れにあの女性は朽ちたような私を思い出してくれるだろうか。

③ 友だちからのコメント

ここがよかったよ！

湖西・和歌



① 声に出して読もう！

嵐吹く比良の高嶺の嶺わたしに
あはれしぐるる神無月かな

だういん
道 因
(平安期の歌人)

嶺わたし…高い嶺から吹き下ろす風。

(例) ② 口語詩にチャレンジ！

嵐の吹く比良の高嶺の、その高嶺から吹き下ろしてくる風に、ああ、ふもとはしぐるる神無月よ。

③ 友だちからのコメント

ここがよかったよ！

組 番

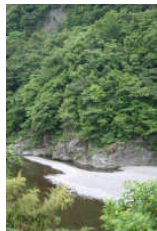
湖西・和歌



① 声に出して読もう！

組 番

花咲かぬ朽木の 杣の 杣人の
いかなるくれに思ひ出づらむ



ふちはらのなかがみ
藤原 仲文
(平安期の歌人)

杣…材木を切り出す山。

杣人…杣山のきこり。

くれ…「樽」(切り出したままの丸太)と「暮れ」とが掛詞になっている。

① 声に出して読もう！

組 番

(例) ② 口語詩にチャレンジ！

花の咲かない朽木の杣山の木こりが切り出す丸太ではないが、どのような夕暮れにあの女性は朽ちたような私を思い出してくれるだろうか。

③ 友だちからのコメント

ここがよかったよ！

湖西・和歌



① 声に出して読もう！

嵐吹く比良の高嶺の嶺わたしに
あはれしぐるる神無月かな

だういん
道 因
(平安期の歌人)

嶺わたし…高い嶺から吹き下ろす風。

(例) ② 口語詩にチャレンジ！

嵐の吹く比良の高嶺の、その高嶺から吹き下ろしてくる風に、ああ、ふもとはしぐるる神無月よ。

③ 友だちからのコメント

ここがよかったよ！

組 番

①声に出して読もう！

真野の浦の淀の継橋情ゆも
思へや妹が夢にし見ゆる



吹黄刀自
（万葉期の歌人）

継橋：柱を立て、板を継ぎ渡してか
けた橋。

情ゆも思へや：心の底から思ってい
るのか。（思つと相手
の夢を見るといふ俗
信を踏まえている。）



湖西・和歌

①声に出して読もう！

雲のゆく堅田の奥やしぐるらむ
やや影しめる海女の漁火

藤原 定家
（平安・鎌倉期の歌人）

奥：沖の意。
漁火：魚を漁船の方へ誘い寄せるた
めに焚く火。



湖西・和歌

組

番

（例）②口語詩にチャレンジ！

真野の浦の、淀の継ぎ橋のように、つ
ぎつぎに私のことを心の底から思っ
てくださるからでしょうか。あなたがこ
のころ私の夢に現れてくださるんです。

③友だちからのコメント

ここがよかったよ！

組

番

（例）②口語詩にチャレンジ！

雲がゆく堅田の沖はしぐれているのだ
ろうか。やや影がうるんで見える、海
女の漁り火は。

③友だちからのコメント

ここがよかったよ！

① 声に出して読もう！

鎖^{じやう}あけて
月^{いれ}さし入^{うきみどう}よ
浮御堂

芭蕉

（江戸元禄期の俳人）

浮御堂：大津市堅田、満月寺の琵琶湖上にある仏堂。千体の阿弥陀仏像を奉安している。



組

番

（例） ② 口語詩にチャレンジ！

浮御堂の鍵を開け、
この美しい月光をお堂の中まで
さし入れよ。
そこにおわします阿弥陀千体仏を
いっそう光り輝かすために。

③ 友だちからのコメント
ここがよかったよ！

① 声に出して読もう！

このあたり
真野^{もかりがね}の入江や
藻刈舟

高浜 虚子

（明治・大正期の俳人）

藻刈舟：沼・池・川・海などに茂った藻を刈り取るために用いる舟。



組

番

（例） ② 口語詩にチャレンジ！

この辺りが古くから歌に詠まれるあの
真野の入り江なのか。藻を刈る舟が浮
かんでいるよ。

③ 友だちからのコメント
ここがよかったよ！

湖西・俳句

湖の

鏡に寒し

比良の雪

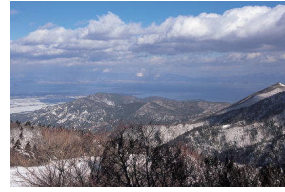
①声に出して読もう！



支考

（江戸元禄期の俳人）

湖西・俳句



風さゆる八十の湊の明くる夜に

磯崎いそざきかけて千鳥鳴くなり

①声に出して読もう！

ふちはらののぶせね
藤原 信実

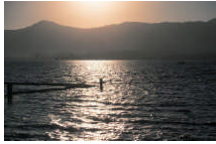
（平安期の歌人）

風さゆる…：風の冷たく寒いこと。

八十の湊…：たくさんの湊。地名と見る説もあり。

磯崎…：米原市磯の磯山の岬。

湖北・和歌



（例）②口語詩にチャレンジ！

比良の暮雪で有名な比良山に雪が降り積もる。この寒さに琵琶湖の水面も鏡のように澄んでいる。

組

番

③友だちからのコメント

ここがよかったよ！

組

番

（例）②口語詩にチャレンジ！

風がさむざむと吹く八十の湊、磯崎にかけて、今この冬の夜明けに、千鳥が鳴いているのだ。

③友だちからのコメント

ここがよかったよ！

おぼつかない

伊吹おろしの風先に

朝妻舟は会ひやしめらむ

西行

（平安・鎌倉期の歌人）



おぼつかない…はっきりせず、不安な

心を表す。「おぼつかない

し」の語尾を略した形。

風先…風の向く先。風下。

会ひやしめらむ…今頃、会っている

だろうか。



湖北・和歌

①声に出して読もう！

組

番

（例）②口語詩にチャレンジ！

気がかりなことだよ、伊吹山から吹き下ろすきびしい風、その風の向く先に朝妻舟は今頃出会っているのだろうか。

③友だちからのコメント

ここがよかったよ！

①声に出して読もう！

組

番

筑摩川入江に鴛鴦のさわがぬは

蘆の末葉に氷しぬらし

（平安期の歌人）
恵慶

鴛鴦…おしどり。

蘆の末葉…蘆の伸びた先の葉。

（例）②口語詩にチャレンジ！

筑摩川の入江にいるおしどりが騒がないのは、蘆の先の葉に氷が張るくらい寒いかららしいよ。

③友だちからのコメント

ここがよかったよ！

湖北・和歌



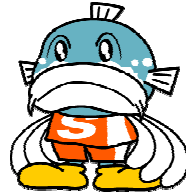
①声に出して読もう！

思ひゆくその面影おもかげに袖濡そでれて
結ばぬ夢も醒井さめがみの水

ふちはらのまきつね
藤原 雅経
(鎌倉期の歌人)

結ばぬ夢：その人を夢に見ないこと。
醒井：「夢」が醒めるにかかる。

湖北・和歌



①声に出して読もう！

鳩鳥にほどりの息長川おきながかはは絶えぬとも
君ことに語らむ言つきめやも



うまのふひとくにひと
馬史 国人
(万葉期の歌人)

鳩鳥の：息長川の「息」にかかる枕詞。
鳩鳥はかいつぶり。水に潜つて息が長く続くことから「息」にかかる。

言つきめやも：反語。言葉が尽きるものか、決して尽きはしないという強い否定。

湖北・和歌



②口語詩にチャレンジ！

思ひゆくその人の面影で涙が袖を濡らすことよ。醒井の水ではないが、結ばぬ夢は醒めやすいことだ。

組

番

③友だちからのコメント

ここがよかったよ！

組

番

②口語詩にチャレンジ！

近江の息長川はたとえ絶えてしまいうことがあったとしても、わが君に語りた言葉は尽きることがあるだろうか、いや、決して尽きることはない。

③友だちからのコメント

ここがよかったよ！

①声に出して読もう！

思へども行くべき方かたもなき島に
夜ごとに月に誘はるるかな

ぎやうそん
行 尊

（平安期の歌人）

島…詞書によると「こ」では竹生島の
「こ」。

湖北・和歌



①声に出して読もう！

けふも又
かくやいぶきのさしもぐさ
さらば我のみ
もえやわたらむ

和泉 式部

（平安期の歌人）

いぶきのさしもぐさ

…伊吹山でとれるもぐさ。「燃える」
にかかる。「いぶき」は「言つ」「の
意をもつ」。

湖北・和歌



組

番

（例）②口語詩にチャレンジ！

行ってみたいと思うけれども、行くこ
とのできないあの島に、夜ごとに、月
に、私の心は誘われるのですよ。

③友だちからのコメント

「こ」がよかったよ！

組

番

（例）②口語詩にチャレンジ！

今日もまた、このように冷淡におっし
やるのですか。それならば伊吹山のも
ぐさのように、ひとり私だけ心が燃え
続けることでしょうか。

③友だちからのコメント

「こ」がよかったよ！

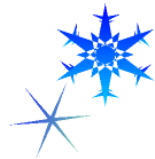
①声に出して読もう！

衣手ころもてに余呉うらかぜの浦風うらかぜさえさえて
己高山こたかみやまに雪降りゆきふりにけり

源みなもとのよりつな 頼綱たのづな
(平安期の歌人)

衣手：衣を古くは「そ」と言ったの
で、衣手は「そで」のこと。
さえさえて：ひどく寒く感じられる
こと。

湖北・和歌



①声に出して読もう！

伊香山いかごやま野辺のべに咲きたる萩あぎ見れば
君きみが家いへなる尾花おしなし思ほゆ

笠かさ 金村かなむら
(万葉期の歌人)

伊香山：奥琵琶湖の賤ヶ岳の南嶺。
尾花：ススキの別称。仲秋の名月に
月見団子とともに月に供える
風習がある。ススキのかわり
に萩を供えることもある。

湖北・和歌



②口語詩にチャレンジ！

袖そでに吹いてくる余呉湖の浦風が一段と
寒く感じられる。なるほど今日は向こ
うの己高山に雪が降ったことだよ。

組 番

③友だちからのコメント

ここがよかったよ！

組 番

②口語詩にチャレンジ！

伊香山の野辺に咲いている萩を見てい
ると、仲秋の名月に一緒に見た、あな
たの家のススキが思われますよ。

③友だちからのコメント

ここがよかったよ！

組 番

しほつやま
塩津山

①声に出して読もう！
我が乗れる馬ぞつまづく
家恋ふらしも

かさのかなむら
笠 金村

（万葉期の歌人）

塩津山：…西浅井町北部の福井県境あ
たりの山。琵琶湖最北部、
塩津湾の奥に位置する。

湖北・和歌



①声に出して読もう！

はるばると

曇くもりなきよをうたふなり

月出が崎のあまの釣舟

みぢはらのきよすけ
藤原 清輔

（平安期の歌人）

月出が崎：…琵琶湖最北部の塩津湾の
西岸にある月出の集落付
近の崎。

湖北・和歌



（例）②口語詩にチャレンジ！

塩津山を越えていくと、私の乗ってい
る馬がつまずいた。家族が恋しく思っ
ているらしい。

組 番

③友だちからのコメント

ここがよかったよ！

組 番

（例）②口語詩にチャレンジ！

はるばると遠くまで、曇りなく平穏な
この世を讚えて歌っているのだなあ。
月出が崎の漁師の釣り舟よ。

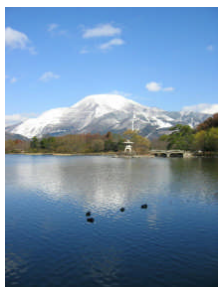
組 番

③友だちからのコメント

ここがよかったよ！

組 番

湖北・俳句



をりをりに
伊吹を見てや
冬籠ふゆごもり

芭蕉
（江戸元禄期の俳人）

①声に出して読もう！

（例）②口語詩にチャレンジ！

ここからは伊吹山が見渡せる。これから冬が深まり、あの山には雪が降り積むだろうが、この家の主人は、あの堂々としてしかも風情のある山を、折々に眺めながら冬籠もりの日々を過ごすことだろう。

③友だちからのコメント
ここがよかったよ！

組

番

湖北・俳句



其ままよその
月もたのまじ
伊吹山

芭蕉
（江戸元禄期の俳人）

①声に出して読もう！

（例）②口語詩にチャレンジ！

伊吹山は辺りを圧して屹立している。この山の姿は、花も月も不要なほど毅然として見事だなあ。

③友だちからのコメント
ここがよかったよ！

組

番

醒井さめがゐの
地蔵ぢざうや瓜うりの
尻冷しりやうやし

①声に出して読もう！

許六
（江戸元禄期の俳人）

地蔵…伝教大師作といわれる地蔵菩薩。
雨を祈願し、水中に安置された
ので尻冷やし地蔵と呼ばれた。



湖北・俳句

①声に出して読もう！

鳥どり共どもも
寝入よこつてゐるか
余吾よごの海

路通
（江戸元禄期の俳人）

余吾の海…余呉湖。
羽衣伝説で知られる。



湖北・俳句

組
番

（例）②口語詩にチャレンジ！

醒井のあの名高い尻冷やし地蔵ではな
いが、瓜の尻を水につけて冷やそうよ。

③友だちからのコメント
ここがよかったよ！

組
番

（例）②口語詩にチャレンジ！

旅の途中で余呉の湖のほとりに宿泊し
た。夜ふけに目を覚ますと、一面の静
寂。きつと余呉の湖の水鳥までもが熟
睡しているのだなあ。

③友だちからのコメント
ここがよかったよ！

